2009 年 11 月 23 日（第 10 回）
2009 年度 JLA 中堅職員ステップアップ研修（1）
領域 3

北欧の図書館事情

吉田右子（筑波大学）

講義概要

2008 年から 2009 年にかけて実施したデンマーク・スウエーデン・フィンランド・ノルウェーの公共図書館でのフィールドワークに基づき、北欧においてどのような図書館サービスが提供され、図書館がどのように利用されているかを写真で紹介する。

北欧の公共図書館は、法体系も職員もサービスもそれぞれ国ごとに異なる。しかしいずれの国でもコミュニティに存在する他の文化施設との競争のなかで、公共図書館の存在意義をアピールすることに力を入れており、多様な運営手法を取り入れて新しいサービスを積極的に展開している。こうした図書館の意欲的なサービスは、従来の利用者から歓迎されると同時に新しい利用者をも取り込むことに成功し、驚くほど活発に公共図書館が利用されている。とりわけエスニック・マイノリティ利用者の増加と、若い世代のグループによる利用の増加が顕著である。

北欧は、一貫して格差のない平等な社会の確立を社会政策の中心課題として掲げてきた。その中にあって公共図書館は、情報への平等なアクセスを確保することによって、情報にかかわるギャップを埋める機関として社会的に認知されている。また生涯学習の拠点として住民から高い信頼を得ている。北欧では幼いころから保護者に連れられて公共図書館を訪れ、学齢期になると学校図書館を通じて図書館と親しむようになる。そしてその後、生涯にわたって図書館を利用するのである。本講義では北欧公共図書館を様々な角度から紹介しながら、平等・共有・セルフヘルプといった北欧社会の理念が、公共図書館の成熟に密接に結びついていることを示す。

ゆったりとした個人学習スペース
(Frederiksberg Hovedbibliotek デンマーク)

児童室の机と椅子
(Högdalens Bibliotek スウェーデン)

講義の構成

１　北欧の公共図書館：概観

　１．１　伝統とＩＴのはざまで

　１．２　図書館サービスの実際

　１．３　公共図書館の施設

　１．４　公共図書館の市民向けプログラム

　１．５　21 世紀の公共図書館サービス

２　北欧公共図書館の基盤：デンマークを例にとって

　２．１　数字で見るデンマーク公共図書館の今

　２．２　デンマーク公共図書館の歴史

　２．３　デンマーク図書館法

　２．４　司書養成

　２．５　公共図書館と住民

３　北欧のさまざまな公共図書館

　３．１　Københavns Hovedbiblioteket（大都市の中央館）

　３．２　Vanløse Bibliotek（文化センターとの連携）

　３．３　Vesterbro Bibliotek ほか（多文化サービス）

　３．４　Sundby Bibliotek（複合施設の中の図書館）

　３．５　Lyngby Stadsbibliotek（大都市近郊の図書館）

　３．６　Vapnagaard Børnebibliotek（移民に対する学習支援）

　３．７　Bispebjerg Bibliotek ほか（小規模図書館）

　３．８　Gellerup Bibliotek（コミュニティプロジェクトと図書館）

　３．９　スウェーデンの公共図書館

　３．10　ノルウェーの公共図書館

　３．11　フィンランドの公共図書館

４　公共図書館利用者と司書

　４．１　公共図書館の利用者：ライフスタイルによって異なる図書館利用法

　４．２　図書館のバックステージ

５　北欧の図書館を支える理念：平等・共有・セルフヘルプ

　５．１　情報への平等なアクセス

　５．２　共有するということ

　５．３　常に自分で道を切り開く

６　北欧公共図書館のめざす場所

　６．１　場所としての公共図書館

　６．２　生涯学習の拠点として公共図書館を見直す

　６．３　マイノリティとマジョリティの統合の場としての図書館